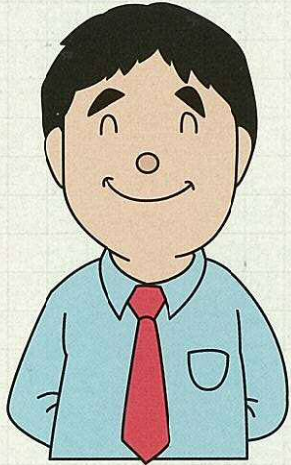


保幼小連携担当者からの一言

Voice 01



(小学校の先生から)

私の学校は、校長先生をはじめ職員間で保幼小の連携の取組みについて理解があり、連携担当者としての活動がやりやすかったです。低学年に限らず、いろいろな学年が交流することで連携はみんなで推進するという意識も高まりました。保育園や幼稚園の先生方と話をする機会も増え、それぞれのクラス運営の様子や先生方が大切にしていることなど、よくわかりました。

「無理をしない。」「担当者ひとりに負担をかけない。」というのが、今から、連携を始める方への、わたしからのメッセージです。

Voice 02

保幼小の連携は時間調整が難しいですね。まずは、職員同士が積極的に日常的な交流を積み重ね、人間関係をつくるのが大切だと思います。

何のために連携が必要かを担当者が自覚していないと、交流がイベントに終わってしまいます。新たに行事を計画しなくても、日頃、小学校教育のなかでみんなが無理なく参加でき楽しめるものはないかを検討してみることから始めてみてはいかがでしょうか。前年度のうちに、次年度の打合せをしておく、よりスムーズに連携が始められますよ。



(校長先生から)

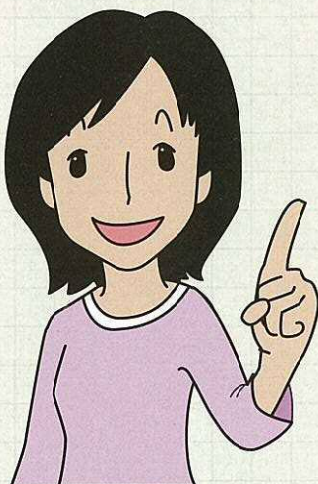
Voice 03

職員同士が互いを知ることが何より重要なので、参観や散歩などで訪問する機会を増やし、気軽に声を掛け合える人間関係づくりに努めました。打合せは時間が限られているので、電話やFAXなどを活用して効率よく行いました。

互恵性のある関係が大切なので、保幼小それぞれの活動のねらいを生かした内容を計画し、乳幼児がお客様にならないよう心がけました。

「遊びと学習」「領域と教科」といった、お互いの違いを知ることとは、連携の大きなヒントになりました。

連携してよかったことは、何度も学校に行き交流したことで、親しみがあったこと、不安感がなくなったことです。交流のおかげで「不安が減りました。」との保護者からの声も聞かれました。



(保育所・幼稚園の先生から)

こどもの交流

～1つの行事を通して～

市内の各地区で
事例を紹介

おいも交流

苗うえ

6月 保育園・幼稚園児と1年生がペアになり、畑にサツマイモの苗を植えます。



子ども達は栽培活動を通して、それぞれの年齢に応じた学びがあります。

子どもたちが協力しながら活動できているか、じっと見守るべき？それとも言葉かけすべき？



子どもたちのやりとりの様子をみながら仲立ちすることも必要ですね。

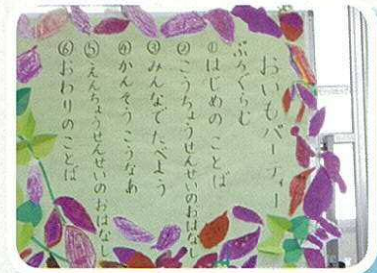
収穫



草とり



小学校農園に植えたサツマイモの苗を見に行き、水をやったり、雑草を抜いたりしてお世話します。日時を決めずに行きますが、現地で交流することもあります。



おいもパーティー



楽しい経験を繰り返すことで、交流することへのよいイメージができ、関わりも意欲的になっていきます。

パーティー会場には保育園・幼稚園それぞれが描いた絵や1年生の作文を掲示します。

こんな交流もあります

行われている
を紹介します。



給食交流

保育園・幼稚園の5歳児と小学校5年生と一緒に給食を食べます。



小学生にお世話してもらいながら、一緒に給食を食べます。
米飯ケースの開け方、ストローのさし方、
牛乳パックのたたみ方なども丁寧に教えてもらいます。



幼児にとっては、交流を楽しめるだけでなく、小学校の校舎に入って、上靴をはいたり、和式トイレを使ったり、ハンカチを使ったり、色々な経験をすることで、小学校生活への期待が高まります。



小学生保育士体験

小学生が保育園・幼稚園に来園し保育士体験をします。
触れ合うことと同時に、自分の幼児期のことを思い出したり、
仕事について学んだりできます。

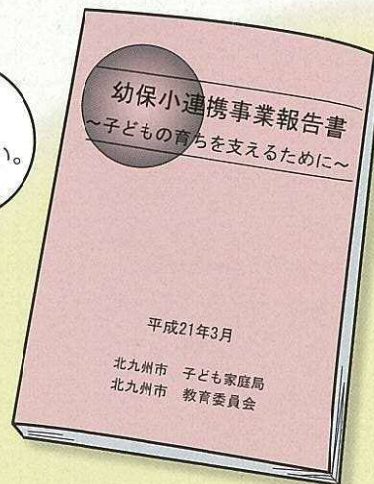


プールでの交流

保育園・幼稚園児が、小学校のプールで小学生と水遊びを楽しみます。



ぜひ、
ご覧下さい。



平成21年3月発行の「幼保小連携事業報告書」には、
具体的な実践経過・カリキュラム等がまとめられて
います。

職員の交流 ~ Face to Face ~



保幼小合同連絡会

卒園児の入学後の様子について6月頃情報交換します。新1年生の生活や学習の様子を聞くことで、保育園・幼稚園の保育にいかせます。



保幼小職員合同研修会

年間テーマを決めての講演会・実践発表・グループ討議など、計画していきます。

時間調整が難しいですが、職員同士が顔見知りになり、連携を深め、密に情報交換できる関係を築けます。



保育士体験

夏休み期間中などに、校区内の保育所(園)・幼稚園で小学校の先生が1日保育士体験をします。

体験者から

「幼児の成長の様子への理解がすすんだ。」「子ども達が保育園・幼稚園で経験してきたことを意識するようになった。」

「楽しい雰囲気の中で展開されているさまざまな遊びの中に、ねらいや配慮があることがわかった。」

などの感想が寄せられました。



保幼小担当者会議

年間の連携の計画をたてたり、次年度の打ち合せをしたりします。連携担当者が中心となって、毎回の交流の計画や反省を、メールやFAXなどを活用して行います。

